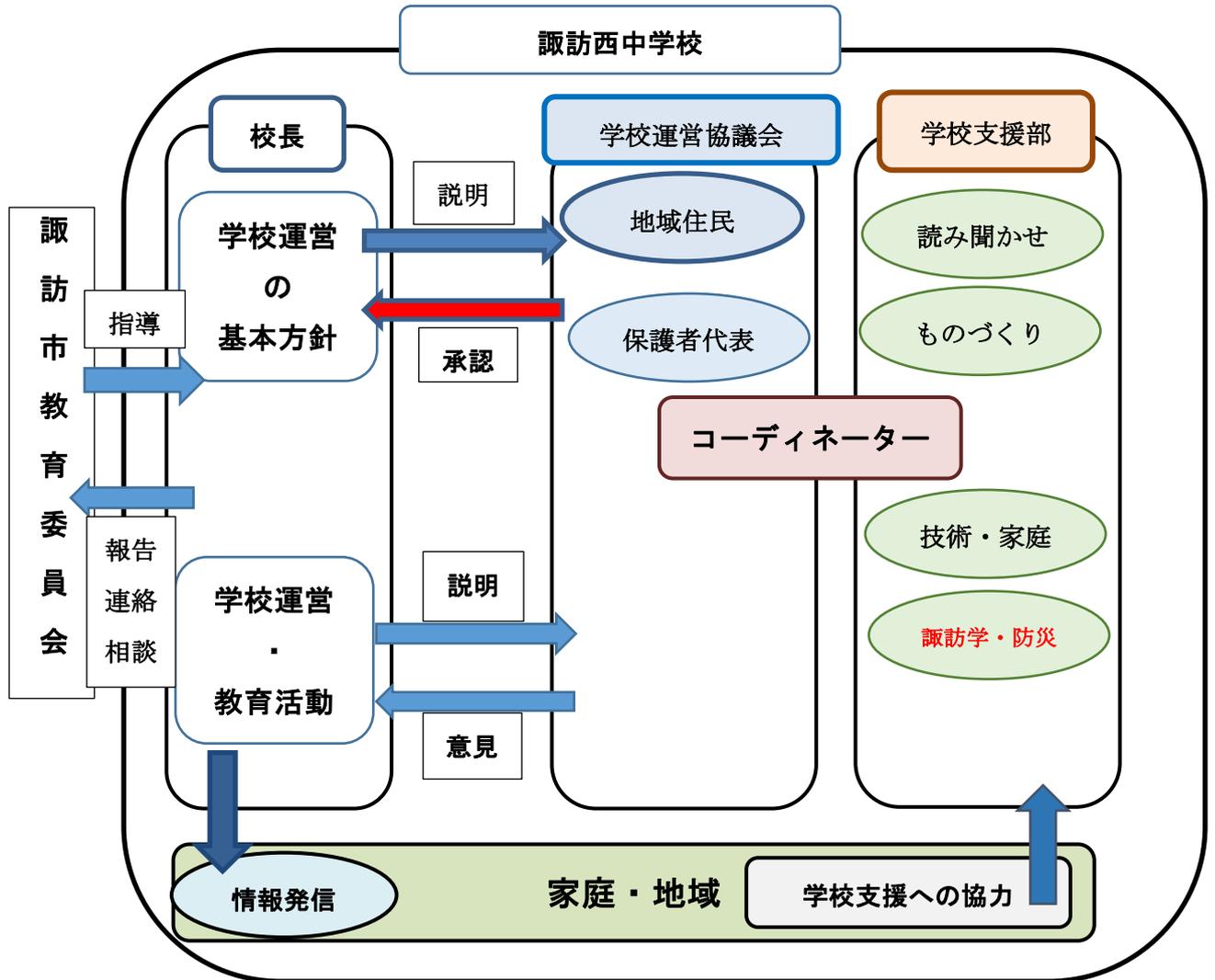


9 諏訪西中学校

1 組織図



2 学校運営協議会の歩み

(1) 第1回 5月13日(火)

- ・主な協議内容：正副会長選出
今年度の運営について
- 学校教育方針
学校からのお願い

(2) 6月27日(金) 西山三校CS運営協議会合同会議

- ・主な協議内容：各校Coが集まりできそうなことを確認
⇒毎月第一水曜日を「西山あいさつの日」に

(3) 第2回 9月25日(木)

- ・主な協議内容：前期の取り組みを振り返って
今後の取り組みについて
- 学校からのお願い

(4) 12月5日(金) CSを共に考える会

- ・主な協議内容：生徒とCS運営協議員とでの懇談を実施。
テーマ『地域と一緒にしたいこと・してみたいこと』

(5) 第3回 2月25日(火)

- ・主な協議内容：令和7年度を振り返って 令和7年度 学校自己評価について
令和8年度 CS学校運営協議会・グランドデザインについて

3 地域学校協働活動の実際

【新規】

(1) 地域に即した防災学習

CSの方の繋がりから、諏訪東京理科大学准教授 菊地輝行先生を講師にお迎えし、1年生を対象にした防災の学習を始めた。事前に諏訪の地形について学んだ生徒達から出された問いに菊地先生が答えていく形で進めた。本校はかつて、災害時に避難所になった経緯もある。この地域に住む生徒たちが、地域に即した災害や防災について学ぶことは、非常に意味があると考ええる。今後も防災学習を継続し、全学年に広げていく方向である。



<生徒の感想から>

- ・避難のタイミングなど、大切なことについて話してもらいました。避難のタイミングは、前からずっと住んでいる人にしかわからないものもあるのだそうです。3階建てのコンクリートの建物に登れば大丈夫なことなど教えてもらいよかったです。
- ・ハザードマップは現地にいない人が作っていることを知り、驚きました。私が住んでいる地域には、ひとつも3階建ての建物がないので、昔はどうしていたか調べてみたいと思いました。土石流は車と同じくらいのスピードで襲ってくると聞いて驚きました。
- ・災害に関して、事前に気づく方法やいろいろな知識を身に付けることができよかったです。自分で考えることの大切さや人と情報を共有することの意味を確認できた。

(2) CSを共に考える会

CSの会議の中から生徒の声も聞いてみたいという要望もあり、学校運営協議員の方と本校生徒とで意見交換会を行った。「地域と一緒にしたいこと・してみたいこと」をテーマに、3つのグループに分かれ、話し合った。地区の行事・お祭に参加する、映画会、料理会、運動会、防災訓練や炊き出し、米作り、お花見など、様々な意見が出された。今回出された意見を生かし、CSとして次年度の活動に生かしていけたらと考える。



【継続】

(1) ボランティアさんによる読み聞かせ活動

年に6回、朝読書の時間に地域のボランティアの方に来ていただき、読み聞かせを行っている。日程などは、コーディネーターの方が調整してくださっている。このことは、異動が伴う教職員にとって負担を軽減することとなり、大変助かっている。

(2) 1年生による小学生への読み聞かせとボランティアさんによるアドバイス

1年生による小学生への読み聞かせを、自分の出身小学校に出向いて行っている。ボランティアの皆さんに、事前に読み聞かせのポイントなどをご助言いただいている。今年度は学年行事として取り組み、「西山ハッピータイム」という单元名で実施した。インフルエンザ罹患による学級閉鎖などもあったが、ボランティアさんの柔軟な対応のおかげで無事実施できた。小学生と中学生の笑顔が溢れる「ハッピータイム」となった。

(3) 「ものづくり科」「家庭科」等の授業支援活動

ものづくり科（家庭科分野）や家庭科の授業への学習支援も行っている。家庭科分野を中心に、多くのボランティアの方に参加していただき、手厚い支援をいただいている。

(4) 文化祭等への参加

学区の公民館の文化祭に、吹奏楽部が参加させていただいた。コンクールや文化祭の他に、発表の場を与えていただけることは、生徒にとっても励みになり、地域の方に本校の活動を知ってもらえる機会となっている。また地域の寺社へお祭りへの参加、地域少年野球大会への参加など発表の場を与えていただいた。

更に今年度は、新たな試みとして、国語の授業で行った書き初めの作品を豊田公民館に掲示していただいた。地域の方に大変好評だったと伺っている。



(5) 3年生による地域貢献活動

コロナ渦前は親子作業として行っていたが、昨年度から3年生の「地域貢献活動」として位置づけた。3月の高校入試が終わってから卒業式までの期間に行う。義務教育の終わるこの時期に、3年生が「地域への恩返し」という意味を込めて実施する。これまでは警察の方や交通安全協会の方のお力をお借りし「カーブミラー拭き」の活動を実施してきたが、より持続可能な活動にしていくために「カーブミラー拭き」だけに限らず、より広い内容で活動を吟味したいと考えている。

4 まとめ

(1) 成果

- ・CSの方に繋いでいただき、新たに地域に即した防災学習を始めることができた。講義形式でなく、生徒の問いから出発した学習になった。生徒の感想にもあるように、自分の地域に即した学習をすることで自分事としてとらえることができた。学習から新たな問いが生まれたことにより、次年度への学習へ繋げることができそうである。
- ・「CSを共に考える会」を開催し、生徒と学校運営協議員との意見交換の場を設けることができた。人数構成で生徒数をもう少し増やしてもよかったかもしれないが、新たな試みとしては実施してよかったように思う。
- ・西山三校でCS運営協議会合同会議を開催できた。できそうなことを確認し、10月より毎月第一水曜日を「西山あいさつの日」に設定して、あいさつ交流を始めることができた。
- ・1年生の学校訪問の際には、読み聞かせについてアドバイスをいただいた。今年度は学年で取り組んだが、国語科がないため大変助かった。中学生も満足感を得られる活動となり、でいい交流にすることができた。

(2) 課題

- ・「CSを共に考える会」で出された意見をどのように活かしていくか。
- ・本校に即した防災教育について、どのように取り組んでいくか。
- ・塾、地域クラブ、部活動など多忙な中学生が、どのような形で地域の活動へ参加していくか。

(3) 次年度に向けた展望

- ・防災学習2年目となる。1学年と2学年が対象となる。生徒の問いから出発し、追究していけるように、外部と連携し進めていきたい。可能ならフィールドワークのような学習も視野に入れ、構想していきたい。
- ・運営協議会の持ち方については、様々な意見を取り入れながら弾力的に運営していきたい。また「CSを共に考える会」で出された意見を少しでも反映した動きができるよう考えたい。
- ・中学生の地域への参画の仕方はどのような形がよいかを引き続き検討する。できるところから少しずつ進めていきたい。